

かけがわ道徳

実践報告集

～令和元年度～



©掛川市

令和2年3月

掛川市教育委員会

はじめに

掛川市教育委員会では、郷土を誇る心もち、夢に向かってたくましく生きる子どもを育てるために、掛川の子どもたちが地域の先人の生き方に触れ、また、様々な体験活動を通して自己の生き方についての考えを深めるかけがわ道徳を推進しています。平成24年度にかけがわ道徳研究委員会を設置して授業研究を行い、平成25年度からは、掛川市内の全小中学校で、年3時間以上のかけがわ道徳の授業を実践してきました。

また、掛川市教育委員会では、掛川市民の心に根づいている報徳の教えを紹介する「なるほどなっとく金次郎さん」と、郷土の発展に尽くした偉人の生き方を紹介する「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」を掛川の教科書として作成し、子どもたちに配付しています。

そして、掛川市内の各小・中学校で、報徳の教えやかけがわ道徳を教育活動の中に位置付け、特色ある道徳教育の実践をしています。かけがわ道徳が道徳の授業だけでなく、学校の教育活動の場で、地域とのつながりの中で、子どもたちの心の中に芽生え、育まれています。

このたび、掛川市教育委員会では、かけがわ道徳研究委員会の下で推進した各学校からの実践報告を、昨年度に引き続き『かけがわ道徳実践報告集』としてまとめました。今後も、それぞれの学校が、地域に根ざし、学校生活に生かしたかけがわ道徳の実践を継続して推進していくことを期待します。

掛川市教育委員会

目 次

はじめに	・・・・・・・・・・ 1
1 かけがわ道德の背景	・・・・・・・・・・ 3
(1) 現代社会と日本の子どもたちの課題	
(2) 学習指導要領における道德教育	
(3) これまでの掛川市の道德教育に関する施策	
2 かけがわ道德とは	・・・・・・・・・・ 7
(1) 掛川市のめざす子どもの姿	
(2) かけがわ道德のねらい	
(3) かけがわ道德の位置づけ	
(4) かけがわ道德の特色	
3 かけがわ道德構想図	・・・・・・・・・・ 9
4 各校における取組	
(1) 栄川学園（栄川中学校区）	・・・・・・・・ 10
(2) 掛東学園（東中学校区）	・・・・・・・・ 12
(3) 掛西学園（西中学校区）	・・・・・・・・ 14
(4) 桜が丘学園（桜が丘中学校区）	・・・・・・・・ 16
(5) 原野谷学園（原野谷中学校区）	・・・・・・・・ 18
(6) 冀北学園（北中学校区）	・・・・・・・・ 20
(7) 城東学園（城東中学校区）	・・・・・・・・ 22
(8) 大浜学園（大浜中学校区）	・・・・・・・・ 24
(9) 若つつじ学園（大須賀中学校区）	・・・・・・・・ 26

1 「かけがわ道德」の背景

(1) 現代社会と日本の子どもたちの課題

近年、少子化、高度情報化、グローバル化等に伴い社会が変化する中で、子どもたちには以下のような状況が見られる。

ア 新メディアの影響

インターネット社会が加速的に進展し、有害情報や匿名の書き込みによる誹謗中傷やいじめ等、従来の子どもの身近にはなかった問題が生じている。また、テレビゲーム、携帯電話、メール、SNS等はこれまでの家庭風景を変化させ、家族関係までも変えてきている。

イ 家族や地域社会等の変化を背景とした体験活動の減少

核家族化や少子化の進展の中、子どもが兄弟姉妹や親戚同士、友人同士で遊んだり、祖父母等と触れあったりする機会が減少している。さらに、地域社会においても、地縁的なつながりが弱まり、人間関係の希薄化が進む中、子どもの心の成長の糧となる生活体験や自然体験の機会が減少している。

また、子どもの生活スタイルも自然環境から遊離してきており、人間が当然に有するべきたくましさや自他を尊重する心を身につける機会が奪われてきている。

ウ 社会の風潮の変化

価値観が多様化し、今が楽しければよいといった刹那的な行動や公の意識が希薄になり自己の利益のみに関心が収れんする「私事化」傾向が見られる。

また、個人主義を誤って認識した、「自分さえ良ければ」といった利己的な風潮や内（仲間内）では道徳的な言動をとる一方、外（他人・社会）には非道徳的な言動をとること、さらには、「内」なる領域そのものが狭まっている傾向がある。

エ 厳しい家庭環境の中で育つ子ども

近年、経済的に困難な家庭が増加している。また、保護者の育児に関する不安感や児童虐待の相談件数の増加傾向等、子どもの成長の基盤である家庭環境の問題が大きくなっている。

こうした状況の中、基本的な生活習慣や自他の生命の尊重、自尊感情や他者へ思いやりなどの道徳性を養うと共に、それらを基盤として、法やルールの意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることなどが重要な課題となっている。

(2) 学習指導要領における道徳教育

ア 改訂のポイント（小学校：平成30年度から 中学校：平成31年度から）

- (ア) 従来の道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付ける。
- (イ) 目標を明確で理解しやすいものに改善し、道徳教育と「特別の教科 道徳」の目標の関係を明確にする。
- (ウ) 道徳の内容をより発達段階を踏まえた体系的なものに改善する。
- (エ) 多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善する。
- (オ) 検定教科書を導入する。
- (カ) 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実する。

イ 目標等について

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。

(ア) 道徳科の目標（※〈 〉は中学校）

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きる基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を、〈広い視野から〉多面的・多角的に考え、自己の生き方〈人間としての生き方〉についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(イ) 道徳科で育成することを目指す資質・能力

よりよく生きる基盤となる道徳性

(ウ) 道徳科の特性に応じた見方・考え方

様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を、〈広い視野から〉多面的・多角的に考え、自己の生き方〈人間としての生き方〉について考えること。

ウ 道徳科の指導について

- (ア) 道徳科の特質を理解する。
- (イ) 教師と児童生徒、児童生徒相互の信頼関係を基盤におく。
- (ウ) 道徳的価値の自覚を促す指導方法を工夫する。
- (エ) 児童生徒の発達や個に応じた指導を工夫する。
- (オ) 問題解決的な学習、体験的な学習など多様な指導方法の工夫をする。
- (カ) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する。

(3) これまでの掛川市の道徳教育に関する施策

掛川市は、「報徳の教えが息づくまち」として、市民一人一人の充実した生きがいと、郷土に誇りと愛着をもてるまちづくりを進めてきた。

掛川市教育委員会は、昭和 63 年、道徳副読本「心のともしび」の発刊以来、掛川市ならではの道徳教育を重視してきた。

時 期	実 施 内 容
S63	道徳副読本「心のともしび」発刊
H13	道徳副読本「心のともしび」改訂版発刊
H19, 20	掛川市指定研究「西郷小人づくり研究」
H22	「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」発刊
H23	道徳副読本「なるほどなっとく金次郎さん」発刊
H22, 23	掛川市指定研究「原谷小人づくり研究」
H24, 25	掛川市指定研究「上内田小生き方科研究」
H24, 25	掛川市「かけがわ道徳」研究委員会

ア 道徳副読本「心のともしび」発刊 ※監修・執筆等…10 人

掛川市には大日本報徳社があり、明治以来、報徳の教えの普及に努めてきた。昭和 63 年、この教えをもとに人としての生き方を学ぶための道徳副読本「心のともしび」を発刊した。

イ 道徳副読本「心のともしび」改訂版 ※監修・執筆等… 7 人

平成 13 年、「心のともしび」を一部改訂し、再版した。

ウ 掛川市指定研究「西郷小人づくり研究」

平成 19 年、20 年度の 2 年間、西郷小学校に「人づくり研究」を指定した。道徳や総合的な学習の時間、生活科、学級活動を効果的に組み合わせ、「地域のひと、もの、ことから学ぶ単元」、「あったかコミュニケーション単元」、「見つけ活動単元」の 3 つから構成した「生き方科」の実践研究を行った。

エ 「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」発刊 ※監修・執筆等…58 人
平成 22 年、郷土にゆかりのある歴史に輝く偉人(76 人+36 人)について調査研究し、「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」として発刊した。

オ 道徳副読本「なるほどなっとく金次郎さん」発刊 ※監修・執筆等…16 人
平成 23 年、「心のともしび」改訂版もとに、写真やイラスト、地図等を豊富に取り入れ、わかりやすく、親しみやすいものに編集し直し、「なるほどなっとく金次郎さん」として発刊した。

カ 掛川市指定研究「原谷小人づくり研究」

平成 22 年、23 年度の 2 年間、原谷小学校に「人づくり研究」を指定した。地域の「ひと・もの・こと」に関わる体験活動とそれを価値づける道徳の時間を効果的に組み合わせた実践研究が行われた。

キ 掛川市指定研究「上内田小生き方研究」

平成 24 年、25 年度の 2 年間、上内田小学校に「生き方研究」を指定した。西郷小、原谷小での研究成果を生かしながら、道徳教育を重視し、掛川に根づく道徳の教えや地域の教育力や体験活動と関連させた生き方研究を行った。

ク 掛川市「かけがわ道徳」研究委員会

平成 24 年度から、「かけがわ道徳研究委員会」を設置し、これまでの掛川市の道徳教育を整理し、各中学校区にて小中 9 年間の一貫性を持った「かけがわ道徳」の授業を実践的に研究している。

その成果として、26 年度には「かけがわ道徳」授業案集を、27 年度からは、「かけがわ道徳」実践報告集を毎年作成している。

2 「かけがわ道德」とは

(1) 掛川市のめざす子どもの姿

掛川市の子どもたちは、家族との朝食摂取や進んで挨拶、きまりの遵守等についてよい傾向が見られる。特に、地域行事への参加率には極めて高い数値が見られる。(全国学力学習状況調査)

これは、地区祭典や地域防災等の地域活動、全市一斉青少年育成環境美化活動等へ参加する子どもたちが多いからである。

今後、こうした掛川の子どものよさを大切にしながら、掛川市の目標である「夢に向かって、自ら考え、自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子ども(「人づくり構想かけがわ」)」に向かって一層教育の充実を図っていくことが重要である。

(2) 「かけがわ道德」とは

「かけがわ道德」とは、掛川ならではの「題材」を取り入れたり、「地域人材」を活用したりする「特別の教科 道德」を要として、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育をいう。

(3) 「かけがわ道德」のねらい

掛川の子どもたちが地域の先人の生き方に触れ、また、様々な体験活動を通して自己の生き方についての考えを深め、郷土を誇る心を持ち、夢に向かってたくましく生きることをねらいとする。

(4) 「かけがわ道德の授業」の位置づけ

年間 35 時間の道德授業の中で、3～5 時間程度の『かけがわ道德の授業』を行う。

(5) 「かけがわ道德」の特色

ア 郷土の偉人や文化等を取り入れた道德

- ・多様な生き方が織り込まれ、生きる知恵や勇気などを学ぶことができる掛川の偉人「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」や「なるほどなっとく金次郎さん」を活用する。
- ・地域の自然、伝統と文化などを題材とし、子どもたちが感動を覚えるような道德教材を開発する。

イ 体験活動を生かした道徳

- ・総合的な学習の時間や生活科、特別活動等で行う体験活動と道徳の関連指導を行い、相互の指導効果を高める。
- ・体全体で対象に関わり、新たな気づきや見方の広がりをもたらすようなボランティア活動や職業体験活動・地域行事等を通して道徳的な価値につなげる。

ウ 人間関係を育む心の教育

- ・自尊感情や規範意識を高め、好ましい人関係を作り、いじめのない社会、平和な世界を築いていこうとする心を育てる。
- ・自分の考えを基に表現し、自分とは異なった考えに接する機会の充実を図るとともに、自らの成長を実感できるような指導を行う。

エ 家庭や地域社会と連携する道徳

- ・保護者や地域人材・関係機関等の参加協力を得て道徳授業を行う。
- ・道徳授業公開・学校だより・懇談会等を通して、道徳教育の発信と共有を図る。

3 かけがわ道徳構想図

夢に向かって、自ら考え、自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

【日本の子どもたちの課題】

- ・生命尊重の心や自尊感情が乏しい
- ・基本的な生活習慣の確立が不十分
- ・規範意識の低下・社会性が不十分
- ・人間関係を築く力が弱い

【掛川の子どもたちの表れ】

- ・進んで挨拶をする
- ・きまりを守ろうとする
- ・地域行事へ積極的に参加する
- ・人間関係を築く力が弱い

【育てたいこと】

自尊感情
生命尊重
規範意識
基本的な生活習慣
人間関係を築く力
道徳的な判断力
平和な世界をつくる力

【掛川市教育委員会の取り組み】

- S63 副読本「心のともしび」発刊
H13 副読本「心のともしび」改訂
H19、20 指定研究 西郷小学校「人づくり研究」
H21 「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」発刊
H22、23 指定研究 原谷小学校「人づくり研究」
H23 副読本「なるほど、なっとく、金次郎さん」発刊
H22、23 指定研究 原谷小学校「人づくり研究」
H24、25 指定研究 上内田小学校「生き方研究」
「かけがわ道徳」研究委員会

道徳教育の更なる充実

生き方を求める「かけがわ道徳」の推進

目 標 様々な体験活動や人々の生き方に触れることを通して、自己の生き方についての考えを深め、郷土を誇る心を持ち、夢に向かってたくましく生きる子どもたちを育てる

内 容

郷土の偉人や文化等を取り入れた道徳

- 報徳の教え
 - ・副読本「なるほどなっとく金次郎さん」
- 郷土の偉人の生き方
 - ・副読本「この人に学びたい～掛川の偉人ものがたり～」
- 地域の自然、伝統と文化等の道徳教材開発

体験活動を生かした道徳

- 総合的な学習、生活科、学級活動等との関連重視
- ボランティア活動や職業体験活動・地域行事等の関連重視

人間関係を育む心の教育

- ～いじめのない社会、平和な世界をつくる子ども～
- 自分の考えを基に表現し、自分とは異なった考えに接する機会の充実
 - 自らの成長を実感できるような指導の工夫

家庭・地域と連携する道徳

- 地域人材の活用・保護者の参加
- 道徳教育の発信・共有（授業公開・学校だより・懇談会等）

中学校区学園化構想

第4学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立東山口小学校

- 1 主題名 目標に向かって（内容項目A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志）
- 2 資料名 『まきをせおった金次郎』（出典 なるほどなっとく金次郎さん）
- 3 本時のねらい
家族のために働きながら勉強し続けた金次郎について考えることを通して、目標に向かって励み希望をもって努力する心情を育てる。

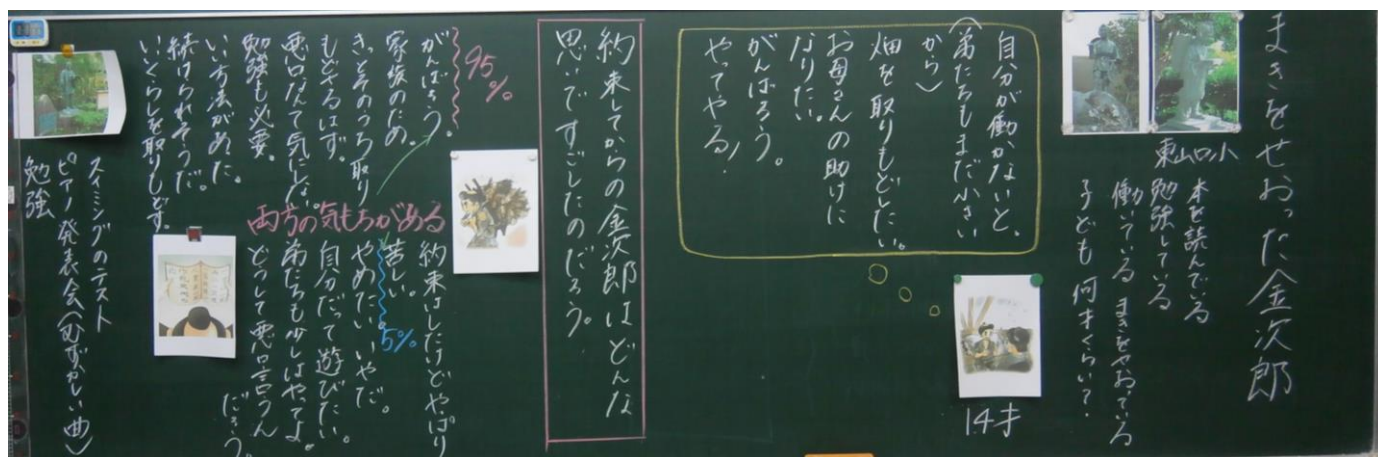
4 指導過程

過程	学習活動	留意点		
導入	<p>○金次郎さんは何をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んで勉強している。 ・子どもなのに働いているのかな。薪を背負っているよ。 ・畑仕事しながら勉強している。どうしてどっちもやるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東山口小の金次郎の銅像の写真を見せる。 		
展開	<p>○「まきをせおった金次郎」の資料を読む。</p> <p>○14才で父親をなくし、家族を支えていく立場になった金次郎はどんなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弟たちも小さいしどうしよう。自分もまだ子どもなのに。 ・自分が家族を支えていけないといけない。がんばろう。 ・お父さんがいたときのよう畑をとりもどしたい。 <p>◎約束をしてからの金次郎は、どんな思いで過ごしたのでしょうか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・そのうち田畑を元通りにできる。がんばろう。 ・嫌なことを言う人がいても気にしない。がまんしていればおさまるかな。 ・取り戻すには勉強も必要だ。 ・うまく時間を作る方法を見つけたぞ。うれしい。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・苦しいな。 ・目標はたてたけど、やっぱりやめたい。 ・村人たちからの悪口は嫌だな。 ・なんで自分ばかり。弟たちにも手伝ってほしい。そうしたら勉強できる時間も増えるのに。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのうち田畑を元通りにできる。がんばろう。 ・嫌なことを言う人がいても気にしない。がまんしていればおさまるかな。 ・取り戻すには勉強も必要だ。 ・うまく時間を作る方法を見つけたぞ。うれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しいな。 ・目標はたてたけど、やっぱりやめたい。 ・村人たちからの悪口は嫌だな。 ・なんで自分ばかり。弟たちにも手伝ってほしい。そうしたら勉強できる時間も増えるのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を貼りながら資料を読む。 ・金次郎が4年生とそんなに変わらない年であることを実感させる。 ・諦めたい気持ちにも触れる。そちらよりも目標をかなえたい気持ちが強かったことをおさえる。
<ul style="list-style-type: none"> ・そのうち田畑を元通りにできる。がんばろう。 ・嫌なことを言う人がいても気にしない。がまんしていればおさまるかな。 ・取り戻すには勉強も必要だ。 ・うまく時間を作る方法を見つけたぞ。うれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しいな。 ・目標はたてたけど、やっぱりやめたい。 ・村人たちからの悪口は嫌だな。 ・なんで自分ばかり。弟たちにも手伝ってほしい。そうしたら勉強できる時間も増えるのに。 			
終末	<p>○これまでの自分の経験を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒で、逆上がりができるようになりたかったから、かなり練習したよ。途中でやめようかと思ったけど、やってよかった。 ・勉強がわからなくて途中でやめたことがある。でも、なんかもやもやしたよ。 <p>○教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書かせる。 ◎苦しくても努力した金次郎の思いを知り、自分を振り返ることができたか。 		

（成果と課題）

- 二宮金次郎について、「どんな人か」を知ることができた。また、掛川ならではの教材を使ったことで、郷土に対する親しみを持つことができた。

▲時代背景が難しかったり、「金次郎さんはすごい人で、自分たちとはちがう」という既成概念を子どもたちが持っていたりしたため、「自分ごと」としてとらえることがなかなかできなかった。



5 関連する活動

○郷土の偉人や文化等を取り入れた道徳

- ・ 6年生は、社会の学習と関連させ「岡田良一郎と冀北学舎」の教材を扱った。明治の世で活躍する優れた人材を育てた塾が地元掛川にあったことを知り、良一郎の理想と功績を理解することができた。

○体験活動を活かした道徳

- ・ 5年生の総合的な学習では、内容項目「勤労」に関連し、田植えや稲刈りの体験活動を行った。実際の農作業を体験し、まじめに働き、成果を得ることの喜びを実感することができた。

○地域人材の活用

- ・ 内容項目「郷土愛」に関連し、6年生の総合的な学習の時間に東山口地区の民話や地名の由来などについて地域の方からお話をうかがった。このような学習を通して、子どもたちは郷土への関心と愛着を高めることができた。
- ・ 4年生は地域の方から戦争体験についてのお話をうかがい、国語科の学習と関連づけながら、命の大切さを改めて実感することができた。
- ・ クラブ活動では地域の方から茶道を学び、我が国の伝統文化に触れることのすばらしさを実感することができた。

○人間関係を育む心の教育

- ・ 友だちのよさ（かがやき）をカードに書いて交換し合ったり、委員会活動として、かがやき委員会が昼の放送でかがやきを紹介したりする取組を行っている。友だちに対するかがやきだけではなく、自分のががやきを自覚する取組も行っている。このような活動を通して、自分や友だちの良さに目を向けられる児童が増えてきている。

○その他の取組について

- ・ あいさつ委員会の活動として、朝のあいさつで特によかった子や、あいさつボランティア（自主的にあいさつ運動に取り組む）に参加した子を昼の放送で紹介するなどの活動を行っている。このような活動を通して、全校にあいさつの輪が広がっている。
- ・ 「だまって いっしょうけんめい じかんいっぱい」を合い言葉に、自分たちの学校を自分たちの手できれいにする奉仕の精神をみがいている。整美委員会の活動として、集会でよい掃除について紹介し、掃除に対する意識を高めたり、ペア学年の掃除を見に行く「掃除修行」で見つけたよいところを自分の掃除に生かしたりして、掃除が学校の自慢となるように取り組んでいる。

第1学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立上内田小学校

- 1 主題名 みんながつかう ものや ばしょ (内容項目 C-(10) 規則の尊重)
- 2 教材名 『おかしく ないかな』 (出典 みんなのどうとく)
- 3 本時のねらい

公共物や公共の場を使うときに、周りの人々の気持ちを考えることを通して、みんなの気持ちを考えることが大切であることに気付き、約束や決まりを守ろうとする判断力を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	・留意点 ◎評価
導入	<p>○ 「自分が使うけれど、みんなも使うもの」は、どんなものがありますか。</p> <p>・けん玉やあやとりの紐だよ。すべり台や図書室もそうだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなのものや場所を使うときに大切にすることについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な公共物や公共施設の使い方を想起することで、主題に対する関心を高める。 ・どのような心の弱さが問題を引き起こしたのかを考える時間を確保する。 ・決まりを守ることによってどんなよいことがあるのかを、具体的に話をする。 ・「決まりを守ること」と、「周りの人や次の人の気持ちを考えること」のつながりを板書し、関係性が分かるようにする。 ・みんなが笑顔で過ごせる使い方の共通点について話し合い、多面的に考える。 ◎周りの人の気持ちを考えて、公共物や公共施設の使い方について考えを深めているか。
展開	<p>1 資料「おかしくないかな」を見て話し合う。</p> <p>○どんな様子がおかしいと思いますか。</p> <p>・机の上に落書きをしているよ。次の人が困っちゃうよ。</p> <p>・木の枝を折っているよ。周りの人に迷惑だね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎この子たちは、どのような気持ちでこのようなことをしてしまったのでしょうか。</p> </div> <p>・自分さえ楽しければいい。</p> <p>・みんなもやっているから、一緒にやっちゃおう。</p> <p>・自分一人ならやってもいいかな。</p> <p>2 自分自身を見つめる</p> <p>○ みんながにっこりする使い方は、どのような使い方ですか。これからはどのように使いたいですか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなが気持ちよく過ごせるよう、約束を守って使う。</p> </div>	
終末	<p>3 「きまりかるた」を作り、振り返りを書く。</p>	



5 授業の様子

公園や学校で周りの人が困ることをしている児童の様子を見て、その児童の気持ちや周りの人の気持ちを話し合うことを通して、みんなの物や場所を使うときに大切にすることについて考えた。「楽しそうだからやっている。」「イライラしてやっちゃたのかな。」など、児童の気持ちを想像していた。しかし、いくら楽しそうでもやってはいけないことは心のブレーキをかけて止まることの大切さや、正しく優しく使うとみんなが気持ちよく過ごせると感じる事ができていた。また、振り返りでは、「○○さんの使い方がすてきだから、真似したいです。」や「図書室を大事にするということは静かに使うことです。」など、友達の意見を参考にしながら、これからの使い方を考えられていた。

6 関連する活動

(1) 上内田小の道徳

通常の道徳の授業＋各教科＋学校生活＋にこじろう活動（道徳的実践活動の場として）

○かけがわ道徳として、各学年3時間行う。3年生以上は、「なるほどなっとく金次郎さん」を資料として扱い、5年生以上は「この人に学びたい」も資料として活用している。

○にこじろう活動＝自分もみんなも愛そうとする心やふるまい

にこじろうとは、「にこにこ」活動と「二宮金次郎」の語呂を合わせて作った上内田小のキャラクター。本年度から、「進んで行動する子」「元気なあいさつのできる子」「相手の気持ちを考える子」「みんなのために働く子」をにこじろうの姿として捉えて取り組んでいる。そこに向けて考えたり思ったりしたことを行動で発揮する場として行っていることを「にこじろう活動」と呼んでいる。

(2) かけがわ道徳実践の様子

【勤労】 にこじろうタイム

毎週水曜日の清掃時に、全校で勤労奉仕活動を行います。夏季は自分たちが使うグラウンドの草取り、雨天時や冬季は校舎内の掃除や整頓を行います。自ら、草が多い場所を進んで選んだり、汚れが目立つ場所を見つけたりして、児童が自主的に組めるようにしています。また、集団下校しながら通学路のゴミ拾いやカーブミラーの清掃などを行いました。



【分度】 にこじろう班

全校で8つの縦割り班に分かれて活動を行います。一緒に遊んだり、お弁当を食べたり、読み聞かせをしたり、一輪車パフォーマンスで演技をしたりします。活動を重ねることで、異学年でのよいふれあいが生まれ、協力する姿勢が育まれます。



【至誠】 にこじろうあいさつ

児童会の中心的な活動として取り組みました。「自分から」できるあいさつや「地域の人に向けて」できるあいさつについて考え、実践しました。また、保護者も参加する「PTAあいさつ運動」を年6回行いました。



【推譲】 にこじろう賞

教師が、児童のよい表れを見つけたときにカードに記入し、校内放送で紹介し称揚しています。もっと自分やみんなのために行動しようとする姿が増えてきました。家庭や地域の方が表れを見つけてカードに書いてくれることもあり、「児童のよい表れ」を通して連携が深まっています。



第1学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立曾我小学校

1 主題名 わたしの町すてき（内容項目A—（15） 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）

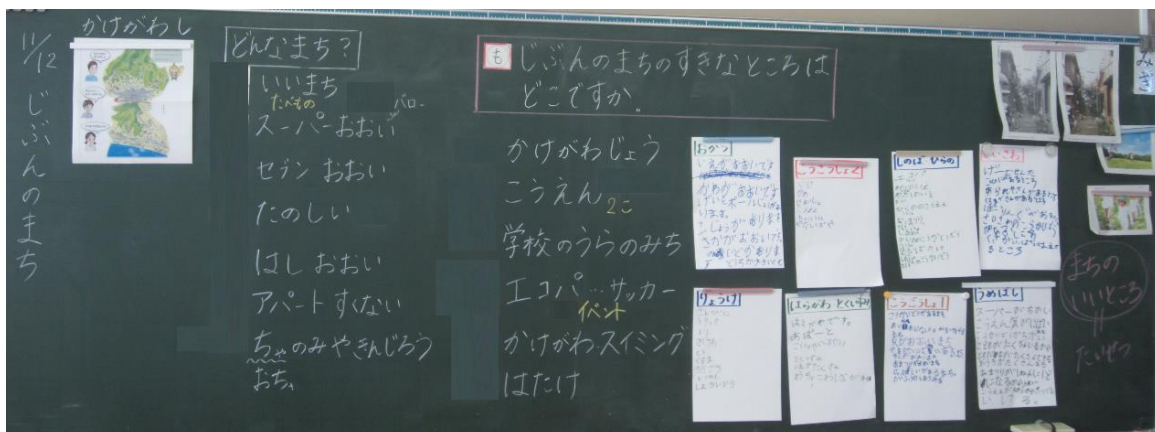
2 教材名 『大すき、わたしたちの町』（出典 みんなのどうとく）

3 本時のねらい

自分の町の好きなところや、自慢を話し合うことを通して、郷土への愛着を深め、親しみをもって生活していこうとする心情を育てる。

4 指導過程

過程	学習活動	・留意点 ◎評価
導入	<p>○掛川市の地図を見て、曾我地区を確認しよう。曾我地区って、どんな町かな。</p> <p>・お茶の町。 ・楽しい町。 ・自然がいっぱいの町。</p>	<p>・曾我地区は、山が周りにあることや、中心地より少し離れたところにあることを知り、自分たちの住む町に親しみをもつようにする。</p> <p>・教材を参考に、場所だけでなく、昔からあるものや、行事についても触れる。</p> <p>・どうして、そこが好きなのか、理由も聞くことで、考えを深める。</p>
展開	<p>○「大すき、わたしたちの町」を読もう。</p> <p>◎自分の住んでいる町の、好きなところは、どこですか。それは、どうしてですか。</p> <p>・お祭りがあるところが、好きだな。お祭りはみんなで楽しく過ごせるから、いつも楽しみにしているよ。</p> <p>・平松のあられやさんが好きだよ。おじいちゃんもお父さんもずっとお店をやっていて、昔からある自慢のお店だよ。</p> <p>・公園があるよ。遊ぶと楽しいから、好きだな。</p>	
終末	<p>○地区ごとに自分の住んでいる町のよいところを紹介しよう。</p> <p>・岡津地区には、ゲートボール場があるよ。</p> <p>・原川には、松並木があるよ。</p> <p>・徳泉には、お茶工場があるよ。おばあちゃんがお茶工場で働いているんだ。だから、掛川はお茶が有名なんだね。</p> <p>・平野には、公園があるよ。みんなで遊ぶと楽しいよ。</p> <p>○他の地区のよいところや自分の地区のよいところを考えて、思ったことを書こう。</p> <p>・平松のあられやさんに行ってみたくと思ったよ。</p> <p>・自分の住んでいる地区は、よいところがいっぱいあるなと思いました。曾我地区がもっと好きになりました。</p>	



5 関連する活動～各教科、地域とのつながり～

<p>勤労</p>	<p>至誠</p>
<p><u>そうじは「だ・い・じ」</u></p>  <p>「だまって・いっしょうけんめい・じかんいっぱい」そうじに取り組みます。掃除見学を通して、低学年も高学年のように「だいじそうじ」ができるようになりました。</p>	<p><u>あいさつは「だ・い・じ」</u></p>  <p>「だれにでも・いつでも・じぶんから」あいさつをします。運営委員が毎朝、昇降口に立ち、朝のあいさつをします。運営委員と一緒に学年事にボランティアの子がハイタッチあいさつをします。</p>
<p>分度</p>	<p>推譲</p>
<p>運動会、水泳、持久走大会前には、必ず全校児童が自分に合った個人の目標を決め、達成できるように練習に取り組みました。11月末の持久走大会に向け、10月から自主的に運動場を走り、練習する姿が見られました。</p> 	 <p>生活科の学習で1年生が秋の実いっぱいランドを開きました。1年生の呼びかけに応じて、1年生の気持ちを大切に、譲り合いながら、関わってくれた高学年や地域の方々のおかげで、大成功を収めました。</p>

家庭・地域との連携

参観会での道徳授業公開（年1回）



地域の方々も、曾我小をよりよくしようと、子どもたちのために、ボランティアで働いてくださっています。子どもたちの心には「ありがとうございます。」という気持ちが、生まれていました。

地域の方による、運動場の木の伐採



第3学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立桜が丘中学校

1 主題名 人類の幸福に貢献する（内容項目C-（18）国際理解、国際貢献）

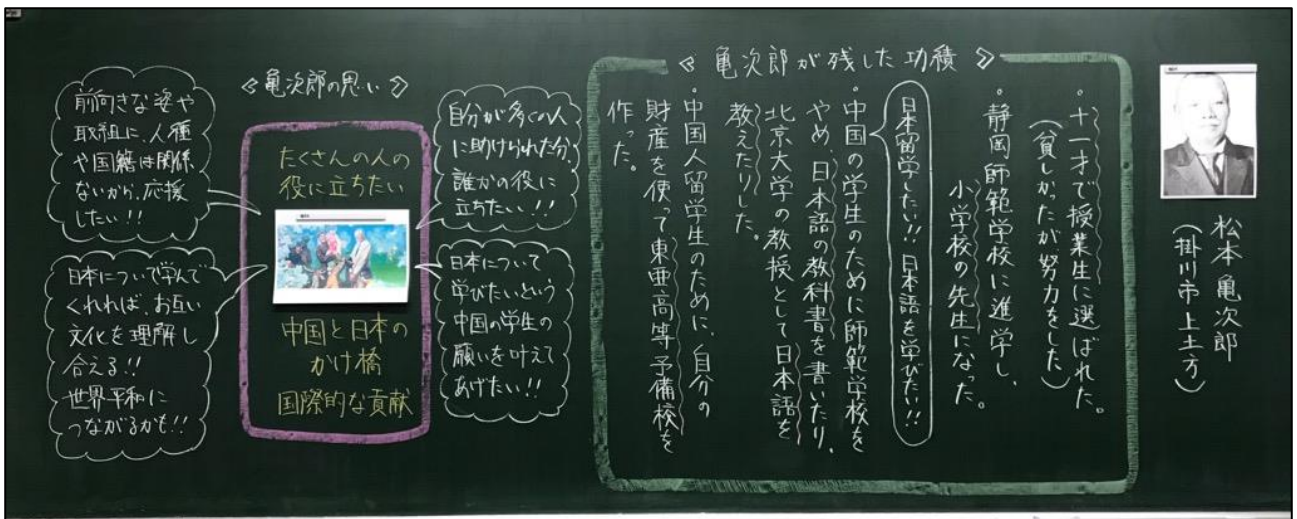
2 教材名 『日本と中国の心のかけ橋となった松本亀次郎』（出典 この人に学びたい）

3 本時のねらい

郷土出身の人物が、中国人留学生の教育の第一人者としての活躍を学ぶことで、世界の中の日本人として自覚をもち、国際的視野に立って、人類の幸福に貢献していく心情を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	・留意点 ◎評価
導 入	○国語の授業で学習した「故郷」の作者は誰ですか。 ・ 魯迅 ○魯迅についての補足情報から、松本亀次郎へと繋げる。 魯迅は文学者としてだけではなく、思想家としても有名で、世の中を良くしたいという強い思いで様々な活躍をしてきた。日本への留学経験もある。国際的にも大きく貢献をした魯迅を育てた一人の日本人がいました。	・国語の授業を想起させ、円滑に教材へと導く。 ・「世の中のため」、「国際的な貢献」という言葉を強調する。
展 開	○教材「日本と中国の心のかけ橋となった松本亀次郎」を読む。 ○松本亀次郎の功績を確認しましょう。 ・懸命に勉学に励み、11才で授業生に選ばれた。 ・静岡師範学校に進学し、小学校の先生になった。 ・中国人の為に師範学校をやめ、日本語の教科書を書いたり、北京大学の教授として日本語を教えたりした。 ・中国人留学生のために、自分の財産を使って東亜高等予備校を作った。 ◎松本亀次郎がこれだけの功績を残したのは、どのような思いがあったからだろうか。 ・（他国である）日本について学びたいという中国の学生の願いを叶えてあげたい。 ・多くの人に助けられてきた分、誰かを助けたい。 ・前向きな姿や取組に、人種や国籍は関係ないから、その思いを大切にして応援してあげたい。誰かの役に立ちたい。	・資料を配付する。 ・展開の流れの中で、どの功績にも、誰かの為に尽力する姿、日本人だけでなく、中国人（国際的）の為に尽力する姿があることを確認していく。 ・留学や日本語の勉強など、国際的に活躍したいという前向きな中国の学生の思いにもふれる。 ◎自分は世界の中の日本人だという自覚をもち、国際的な視野に立って、人類の幸福に貢献しようと考えられたか。
終 末	○あなたが世界の人々や世の中の幸福のためにできること、やってみたいことはありますか。	



5 関連する活動

(1) 総合的な学習の時間との関連

本校では「どう生きるか、なぜ学ぶか」「何に興味があるか、何を学んできたか」を目標の柱としている。3年生では、中学卒業後の進路や自分の生き方について考えてきた。

(a) 中学卒業後の進路について考え、自らの生き方についての視野を広げる

中学卒業後の進路の一つである「高等学校」について学習した。パンフレットやホームページで県内様々な高等学校について調べ、レポートにまとめるだけでなく、年間2回の進路説明会や高校出前授業を通して、それぞれの進路の特徴や今後身に付けるべきスキル等について学習した。

高等学校の一段階先にある進路「大学」についての学習も行った。「静岡大学」「静岡県立大学」「静岡福祉大学」「静岡文化芸術大学」「聖隷クリストファー大学」について、パンフレットやホームページで調べたり、実際に大学を訪れ、見学したりして、その内容をレポートにまとめた。

大学の研究講義も行った。講師に「京都大学 iPS 細胞研究所准教授 池谷 真 氏」を招聘し、世界規模で活躍している研究者の人生や思いを拝聴した。

(b) 自分の強み・得意をもとに未来を語る

「自己理解」「未来の仕事を考える」「自分の未来を語る」の3段階のステップで、自分・未来について語る学習を行った。「自己理解」では、自己PRを最終目標とし、自分の強み・得意について考えた。「未来の仕事を考える」では、未来にはどのような仕事が存在しそうかを考える活動を通して、世の中の発展や自分たちに求められていることについて語り合った。「自分の未来を語る」では、これまでのステップをもとに、自分の強み・得意を活かせる未来の仕事を考え、未来で活躍する自分をイメージしながら、それらについてレポートにまとめた。



(2) 教科との関連

3年生国語科の授業で、中国の文学作品「故郷（作者：魯迅）」を取り扱う授業が行われる。作者の魯迅は、学生時代に松本亀次郎から日本語を教わった人物の一人である。魯迅を紹介する際に、松本亀次郎との関係、日本との関係について触れることで、生徒の理解が深まると考えられる。また、魯迅や周恩来など、多くの著名人を指導した松本亀次郎の偉大さについても実感できるのではないだろうか。



第3学年 かけがわ道德授業案

掛川市立原谷小学校

1 主題名 だれかのために (内容項目C-(16) 勤労、公共の精神)

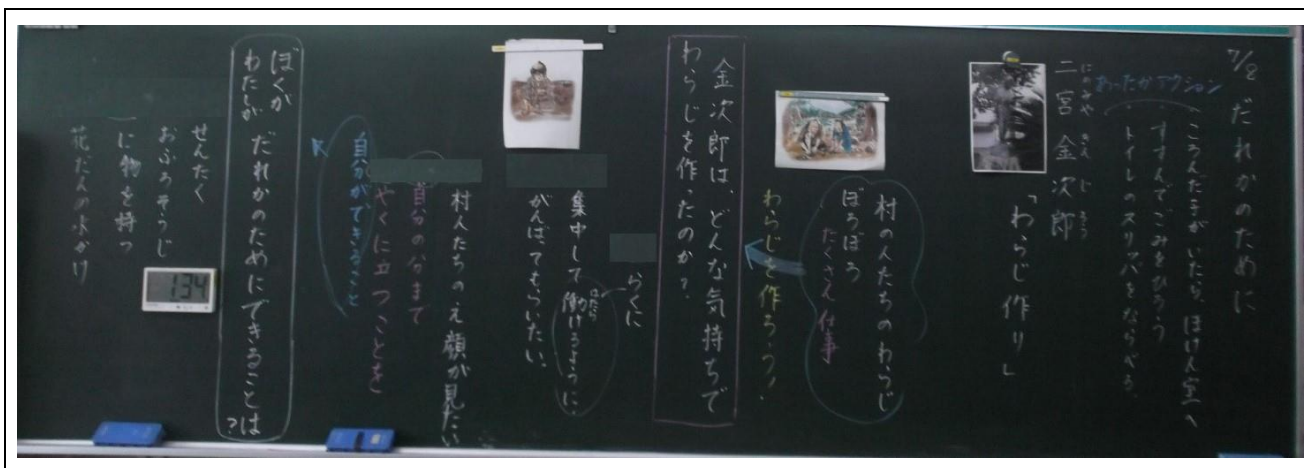
2 教材名 『わらじ作り』 (出典 みんなのどうとく)

3 本時のねらい

自分ができることをする金次郎の気持ちを考えるを通して、「だれかのためにできること」に対する考えが広がり、主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	・留意点 ◎評価
導 入	○だれかのために何かしたことはありますか。 ・トイレのスリッパを並べたよ。 ・落とし物を拾ったよ。 ・あったかアクションだよ。	・価値項目に対する始めの捉えを知る。
展 開	○資料『わらじ作り』を読もう。 ○金次郎は、どんなことをしたのかな。 ・洪水を防ぐ工事をした。 ・大人のように働けないから、わらじを作った。 ◎金次郎はどんな気持ちでわらじを作ったのかな。 ・村人たちのために、がんばりたい。 ・わらじがぼろぼろで、かわいそう。 ・もっとみんなのために働きたい。 ・仕事が進まないと困る。 ・自分は大人のように働けないけど、わらじ作りならできる。	・金次郎を銅像写真で紹介し、教科書を範読する。 ・金次郎のしたことを確認する。 ・金次郎が、みんなのためにできることをしようとした気持ちに気付かせる。 ・周りの子と意見交流をして自分の考えを広げる。
終 末	○だれかのために、できることは何だろう。 ・困っている子を助ける。 ・家の手伝いをする。 ・自分の仕事ではなくても、できることをする。	◎「だれかのためにできること」に対する考えが広がり、進んで行動しようとする気持ちを持つことができたか。



5 関連する活動

(1) あったかアクション

みんなの気持ちがあたかくなる言葉、行動を全校で推進している。運営委員会を中心に、キャンペーンを企画、実行したり、集会や校内放送、掲示で紹介したりして、活動を広めている。各学級でも帰りの会で発表したり、カードに書いたりしている。



(2) あいさつ運動

「だれにでも・いつでも・自分から」を合い言葉に推進している。あいさつ委員会を中心に、あいさつ運動に参加できるような楽しい企画を設け、全校に挨拶を広めている。また、保護者によるあいさつ運動とも連携した活動も行っている。



(3) だいじ掃除

「だまって・一生懸命・時間いっぱい」を合い言葉に縦割り班で清掃を行っている。高学年の児童が手本となり下級生に掃除の仕方を教えている。

第3学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立西郷小学校

1 主題名 みんなのために働く喜びを感じて (内容項目C- (13) 勤労、公共の精神)

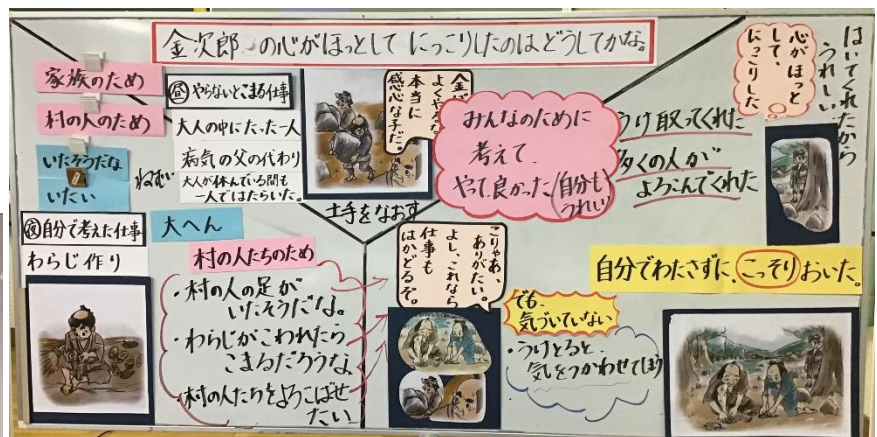
2 教材名 『金次郎のわらじ』 (出典 なるほどなっとく金次郎さん)

3 本時のねらい

父親の代わりに仕事をしていた金次郎が、わらじを作ったことを気付かれていないのに喜んだのはどうしてか話し合う活動を通して、褒められたり褒美をもらったりするためではなく、村の人たちのためにできることを考え働くことで人の役に立つ喜びを得られることに気づき、進んでみんなのために働こうとする心情を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	・留意点 ◎評価
導入	<p>○今、学校でやっている仕事って何だろう。仕事をしている時って、どんな気持ちかな。</p> <p>○今日は、何のために働くのか、このお話を読んで考えよう。</p> <p>○金次郎は、どうしてわらじを作ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親の代わりになのに力が足りないから。(家族や自分のため) ・村の人たちが休み時間も働く金次郎に優しく声を掛けてくれたから、お礼をしたい。(村の人たちのため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せながら働く場があることを投げかける。 ・予め教材を読んでおく。 ・金次郎が作ったことに気付いていないにも関わらず、わらじをもらった村の人たちが喜んでいる様子を見て、金次郎もほっとしてにっこりした時の気持ちを確かめてから中心発問をする。
展開	<p>○村の人たちはわらじをもらって喜んでいただけ、金次郎が作ったことに気付いていないよね。それを見ていた金次郎は、どんな気持ちだったかな。</p> <p>◎金次郎の心がほっとしてにっこりしたのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのために一生懸命に考えて夜遅くまで作ったものだから、村の人たちが喜んでくれて自分も嬉しくなったと思う。 ・村の人たちのためにと考えて作ったから、村人が喜んでのを見て、金次郎も達成感を感じたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近く友達と対話をし、自分と違う考えに触れられる時間を設ける。 <p>◎自分の生活を振り返り、みんなのためにできることを考え働くことが、人の役に立ち必要とされる喜びについて考えている。(ワークシート、発言)</p>
終末	<p>○みなさんも、金次郎のように、みんなのために働いたことはあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけ掃除の時に、クラスみんなが取りやすいように本を整頓している。絵本を高さごときれいに並べると、心もすっきりして自分も気持ちがいい。 <p>○教師の説話を聞こう。</p>	



5 関連する活動

学校教育目標 **かがやけ！じっくり にこにこ とことん**
 重点目標 **考え 動き 笑顔**をふやす

表記 ・活動名
 ・地域教材
 「団体名」

<学校教育>

<地域教材や関係団体>

道徳教育目標

ア 郷土の偉人や自然、文化等を知る取り組み

西郷小学校では、平成 22 年に統合した原泉小学校区を知ることをめあてに、「地域学習」を行っています。

- ・ならここの里川遊び
- ・しばちゃん牧場見学
- ・さくら咲く学校（旧原泉小学校）

エ 地域の方々と連携を図る取り組み

校内に建設された太陽光発電やグリーンカーテン等の活動を通して、地域の環境意識を高める活動を行っています。

- ・グリーンカーテン作り
- ・ソーラーカークイズ
- 「NPO法人WAKUWAKU西郷」
「あさがお環境大使」

**イ 体験的な活動を生かす取り組み
 (総合的な学習の時間や生活科との関連)**

- ・こどもの森 栗拾い（1・2年）……………
 - ・茶摘み・手もみ体験（3年）……………
 - ・こどもの森 枝打ち（4年）……………
 - ・米作り（5年）……………
 - ・オリパラ・オクラ・プロジェクト（6年）……………
- ※東京オリンピック・パラリンピック選手村への食材提供を目指した活動です。

○実践の様子

3年生では、茶摘み体験でお世話になったお茶農家をゲストティーチャーに招き、道徳授業を行いました。子どもたちは、ゲストティーチャーの話に一生懸命に耳を傾け、体験なしでは得られない学びがありました。「掛川のお茶が日本一になったのは、昔から農家の人たちが美味しいお茶を作ろうと努力を続けてきたことを初めて知った。」「農家さんも、大変だな、いやだなと思うことがあってもがんばっていたんだから、私も、まだできる、絶対できると心に言い聞かせてがんばる勇気を持ちたいです。」

体験を通して学んだことを基に自己を振り返るとともに、よりよい自分になりたいという意欲を育てていきたいと思えます。

○目指す目標に向かって、ねばり強く取り組む子を育てる。
 ○相手の気持ちを思いやり、温かな言葉遣いや、親切な行動ができる子を育てる。

- ……………「こどもの森支援の会」
- ……………「五明茶業組合」「手もみ保存会」
- ……………「こどもの森支援の会」
- ……………「JA掛川市西郷支所」
- ……………「しあわせ野菜畑」



ウ 人間関係を育む取り組み

- ・にこにこあいさつ運動
児童会を中心に、あいさつ運動に取り組みました。
- ・特別支援教育への理解
毎年4月に、全学年で『見えない障害』についての指導を行い、知的学級、情緒学級、難聴学級の児童理解を図っています。

・北中学校区「冀北学園」あいさつ運動
年3回、保護者や中学生が来校し、あいさつ運動に取り組んでいます。



第4学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立中小学校

1 主題名 やろうと決めたことは最後まで (内容項目A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志)

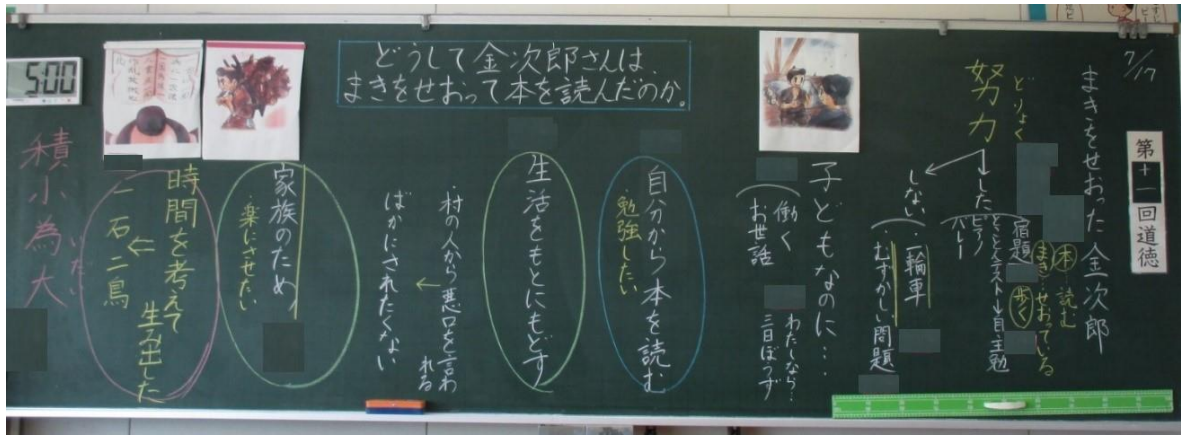
2 資料名 『まきをせおった金次郎』(出典 なるほどなっとく金次郎さん)

3 本時のねらい

金次郎の、諦めずに粘り強く取り組む姿勢を知り、どうしてそのような行動をとるのか考える活動を通して、めあてに向かって最後までやり抜こうとする心情を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	留意点
導 入	<p>○みんなは努力をした経験やあきらめてしまった経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン大会前に練習して、本番で順位が上がった。 ・ 習字をやっていたけれど、いやになってやめてしまった。 <p>○この写真を見て気付くことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二宮金次郎だよ。 ・ 薪を背負って、本を読んでいるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「努力」というテーマについて児童の考えを出させていく。 ・ 最後まで取り組み続ける難しさを全体でおさえる。
展 開	<p>○金次郎さんはどんな人なのか、話を聞いて想像しよう。</p> <p>○「まきをせおった金次郎」の話を聞いて気付いたこと、疑問に思ったことを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧乏だけど、朝早くから薪を拾ったり畑仕事をしたり夜もわらじを作ったりして一生懸命働いていた人。 ・ 働くだけじゃなくて、時間をみつけて勉強した人。 ・ 歩きながら本を読んだらあぶないよ。 ・ なぜそこまで努力できたのかな。 <p>◎どうして金次郎さんは、そうまでして本を読んだのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が働かないと、田んぼが取り返せない。 ・ 家族をそれだけ大切にしたい。お母さんとの約束を守りたかったし、弟も、家も何とかして元通りにしたかった。 ・ 読書が好きだったのはお父さんから教わった字を大事にしたからじゃないかな。本が読めるようになったら色々なことを知って、もっと知識がほしくなったのかも。 ・ 偉い人の教えがわかるようになって、勉強したいという気持ちが強くなった。 ・ 悪口を言う人がいて悔しかったから、負けないように大きな声で何度も読んだんだよ。 ・ 難しい本だったから、声に出して読んだ方が中身の意味が分かりやすくなると気付いたんじゃないかな。 ・ せっかく勉強が面白くなってきたのにただ働くだけじゃだめだって分かってきたから。 ・ 諦めないで時間を見つける「努力」をしたんだね。 <p>○二宮金次郎がしたことをお話しします。</p> <p>○これから自分はどうしていききたいか考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金次郎の写真をいくつか見せ、全部薪を背負って本を読んでいるというところに気付かせる。 ・ 金次郎の世界に集中させるために、紙芝居形式で資料を読み聞かせる。 ・ イメージしにくい場面や言葉の解説をする。 ・ 文字は亡くなった父親から教わったことを紹介する。 ・ 家族のために一生懸命働いていた金次郎の取り組みを確かめる。 ・ 金次郎が1番努力したことは、勉強したことではなく、<u>自分の時間を生み出したこと</u>であるとのおさえる。 ・ 今後くじけそうになったり諦めたりしそうになったらどんな方法をとればいいのか話し合い実践意欲を高める。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金次郎さんのように「時間がない」を言い訳にしないで努力していきたい。 ・ めあてを達成するためには言うだけじゃなくて、考えて実行する方が大事だと思った。だから、思い立ったらすぐ実行してみたい。 	<p>◎めあてに向かって最後までやり抜こうとすることの大切さについて考え、これからの自分の行動を振り返ることができたか。</p>



5 関連する活動

(1) 総合的な学習の時間・生活科との関連

- 1年生「水辺の生き物探し」「昔の遊び」
- 2年生「まちたんけん」
- 3年生「中地区の自慢を紹介しよう(お祭り・お茶)」
- 4年生「亀惣川」
- 5年生「中地区プロモーション(まちづくり)」
- 6年生「夢学習」



どの学年も地域の課題に取り組み、探究的な学習を行った。その際、地域の方をゲストティーチャーに招き、連携しながら学習を進めた。

(2) 学校行事等との関連

「自分から学ぶ子 人と学び合う子」中小学校 ～金次郎の教えを支えに～

勤労

心を磨くための
清掃活動



至誠

「大きく育ててね」
苗植え付け



全校児童による
プール掃除



みんなが気持ちよく生活する
ための委員会活動



「喜んでくれるとうれしいな」
ペア読み聞かせ

ものを大切に。
児童会による
アルミ缶、エコ
キャップ回収



一人の優しさ
が大きな力に。
赤い羽根共同
募金活動



分度

推奨

第1学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立大浜中学校

1 主題名 男女平等な社会（内容項目B-（9）相互理解・寛容）

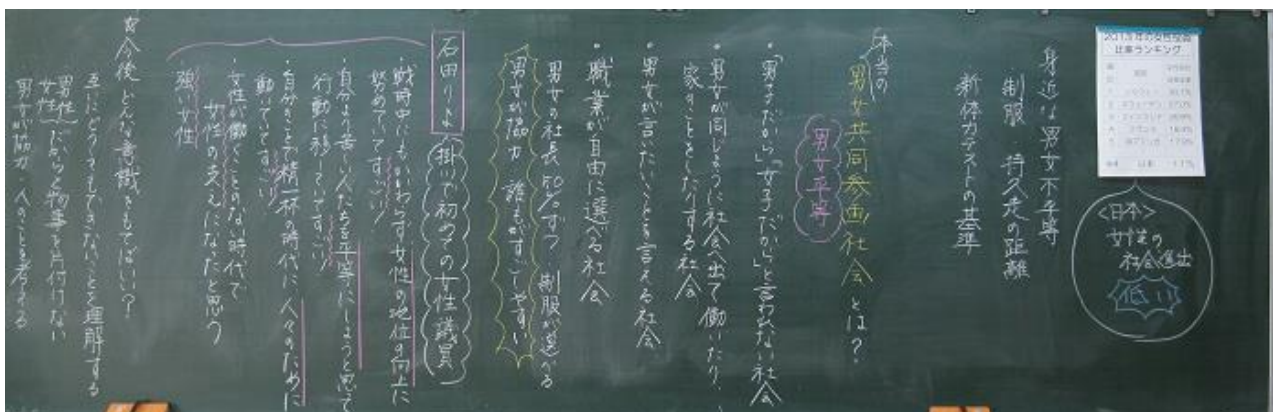
2 資料名 『石田りよ』（出典 この人に学びたい）

3 本時のねらい

女性の社会進出や、男女平等社会のあり方について考えることで、男女が対等に社会に参画するために、それぞれの個性や立場を尊重しようとする態度を養う。

4 指導過程

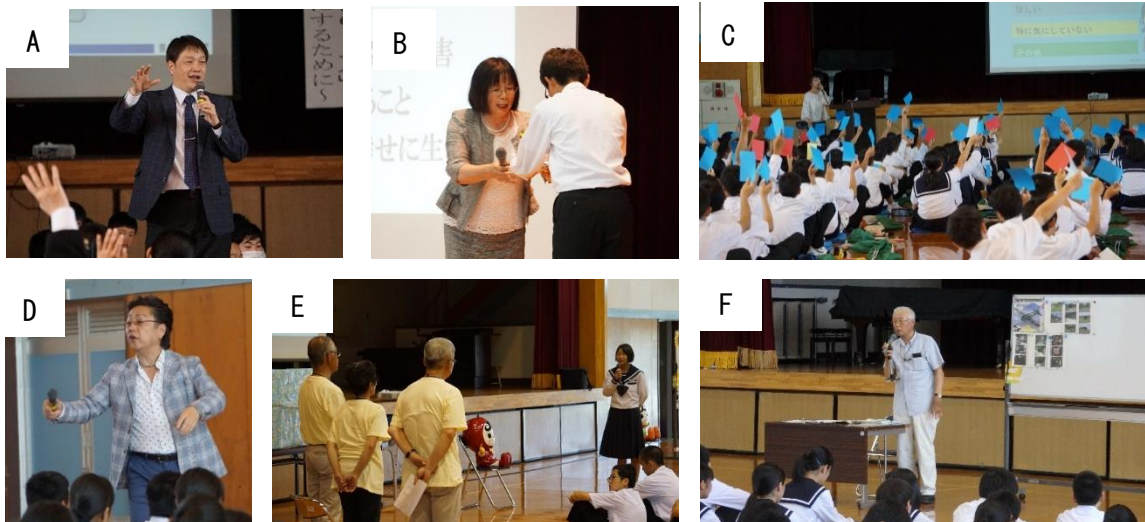
過程	学習活動	留意点
導入	○日本の女性社会進出は世界に比べてどうだと思ふ。 ・普通じゃないかな ・割と高いかな ・こんなに低いの	・女性の社会進出ランキングのグラフを見せる。
展開	○身近なところで男女が平等ではないと感じることはありますか。 ・持久走の距離は男子が長い ・制服や髪型 ・重い物を運ぶとき男子が呼ばれることが多い	・世界との比較も見せ日本の女性社会進出が遅れていることに気付かせる。 ・自由に発言させる。
	○本当の男女共同参画社会とはどんな社会だろう。 ・性別に関わらずやりたい仕事ができる社会 ・家事や育児に性別に関係なく参加する社会 ・「男のくせに」「女だから」という意識がなくなる	・そもそもなぜこの法律ができたのかを補助発問で投げかけ、必要性を感じさせる。
	○石田りよさんの生き方についてどう思いますか。 ・昔はもっと性別の意識が強かったんだ ・こういう方々のおかげで今の社会があるんだ ・すごい信念をもって生きた方だ	・りよさんの時代に女性が男性と同じことをするのがどれだけ大変だったか説明する。
終末	○男女平等社会を実現にするためには、今後どんな意識をもてばよいのだろう。 ・お互いの立場を考えることが大切だと思う。 ・りよさんのように女性が社会進出し、一人の人として活躍できる社会の雰囲気をつくる。 ・仕事を選ぶときに性別にとらわれず、やりたいことをやろうとする。	・以前は男性ばかりだったが、女性が進出してきている（逆も）職業を紹介する。 ◎男女が平等に社会に参画するためにそれぞれの個性や立場を尊重しようとしている。(ワークシート)



5 関連する活動・人材等

① 講演会・学習会の開催

大浜中学校では、専門性の高い講師や地域の方にお越しいただき、講演会・講習会を開催した。



- A はごろも夢講演会** 伊藤 雅充さん 日本体育大学 コーチングエクセレンスセンター長
ゲームなどの活動を交えた講演を通して、生徒主体の活動の大切さを学んだ。
- B 防災学習** 村上洋子さん 元釜石市立釜石東中学校副校長
3. 1 1の経験を涙ながらに語っていただき、防災学習の重要性を学んだ。
- C 情報教育** 長澤弘子さん NPO 浜松子どもメディアリテラシー研究所
自身の SNS の使い方を振り返りながら、SNS の危険性について学んだ。
- D 芸術鑑賞会** 榛葉 昌寛さん 掛川市内出身テノール歌手
プロの歌声を聞いたり一緒に歌ったりして、オペラ音楽の素晴らしさを感じた。
- E 人権講話** 静岡県人権擁護委員
朗読を交えた講話を通して、相手の気持ちを考える事や命の大切さを学んだ。
- F 平和学習** 掛川遺族会
ご自身の経験を踏まえて戦争の悲惨さを語っていただき、平和の尊さを学んだ。

② 地域との連携

資源回収では、通知の配布から回収を生徒が中心となって行った。当日は多くの資源ゴミを回収し、積極的に荷物の積みおろしを行った。

防災訓練では、地域の中学生リーダーとして、事前に防災学習を行った生徒が中心となって訓練を進めた。救護訓練や炊き出し訓練など様々な訓練で活躍した。

ボランティア活動では、各部活動が参加し、福祉施設の清掃や募金活動に協力した。参加した生徒は任された仕事に一生懸命取り組み、地域の役に立つことにやりがいを感じた。



第5学年 かけがわ道徳授業案

掛川市立大淵小学校

1 主題名 分度（内容項目 A-（3） 節度・節制）

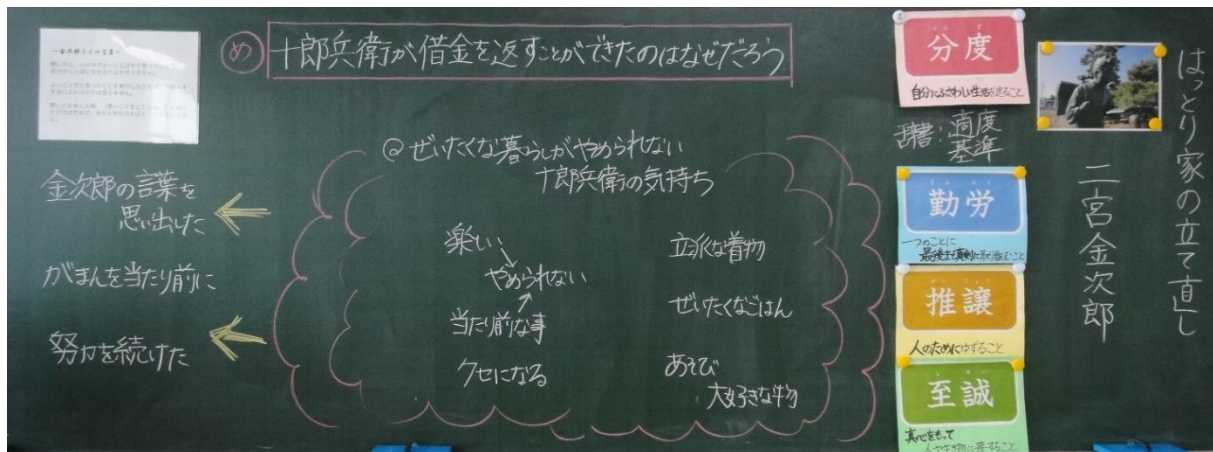
2 教材名 『服部家の立て直し』（出典 なるほどなっとく金次郎さん）

3 本時のねらい

収入が減っても贅沢な生活をし続けた十郎兵衛の心の弱さを考える活動を通して、自分の生活を見つめ、実行することの難しさに気づき、進んで自分の生活を見直そうとする心情を育てる。

4 指導過程

過程	学 習 活 動	・留意点 ◎評価
<p>導 入 展 開</p>	<p>○生活の中で1日の自分を振り返る場面はありますか。</p> <p>・班ごとに振り返りをしている。 ・1週間の日記を書いている。</p> <p>○資料「服部家の立て直し」を読み、十郎兵衛の行動のいい点とよくなかった点を見つけよう。</p> <p>・贅沢な暮らしを5年間も我慢したなんてすごい。ぼくはずっと我慢はできないな。</p> <p>・そもそも借金を作った十郎兵衛はよくなかったよね。</p> <p>・給料が下がっても、急に生活を変えるのは大変そうだな。</p> <p>◎自分の生活を変えなかった十郎兵衛の心の弱さに必要なものは何だったのだろう。</p> <p>・給料が減ったことを、しっかりと知るべきだった。</p> <p>・生活を見直すことが必要だったのではないかな。</p> <p>・現状が変わったから、変わったことに対して自分も変えていけなければいけなかった。</p> <p>○自分の生活を振り返って、改善できそうな点を見つけよう。</p> <p>【睡眠時間】</p> <p>・ゲームのしすぎで夜寝る時間が遅くなっているな。ゲームの時間を決めよう。</p> <p>【勉強時間】</p> <p>・自主勉強の時間が短いな。ずるをしないでしっかりとやろう。</p> <p>・少し前の問題を復習してから新しい問題をやろう。</p> <p>【健康】</p> <p>・ご飯を食べる時間が遅いな。早く食べるようにしよう。</p>	<p>・学校生活で日常的に行っている「振り返り」の場面を取り上げる。</p> <p>・十郎兵衛の弱い気持ちに共感している児童の意見をとりあげる。</p> <p>・十郎兵衛の行動に対する考えが多い児童には「現状を知る」ことに気づけるよう問い返す。(深める発問)</p> <p>・自分の生活を振り返り、改善出来る点が見つけられるように、事前に一週間の生活の記録をつけて、具体的な振り返りをする。 (自分ごととする)</p>
<p>終 末</p>	<p>○今日の授業を通して「節度・節制」についてどのようなことを考えましたか。</p> <p>・自分の生活をよりよくするためにも、自分の生活を振り返り、見直す所を見つける大切さに気づいた。</p>	<p>◎自分の生活を見つめ、実行することの難しさに気づき、進んで自分の生活を見直そうとする気持ちをもつことができたか。</p>



5 関連する活動

(1) 学校行事との関連

ア 縦割り活動

本校では行事や、清掃を縦割り班で行っている。特に1年生は、6年生のペアと一緒に活動し様々な場面で支えられることが多い。本年度は「縦割り遊び」を定期的に行い、より異学年での交流が多くなるように設定した。全校での取組に加え、1年生と6年生で行う「仲よしプール」や、お弁当を一緒に食べる活動も行った。6年生は積極的に1年生のお世話をしたり、一緒に遊ぼうとする姿が多く見られている。

イ やさしいパワー

本校では、「やさしいパワー」を全校で広めようとする取組をしている。「やさしいパワー」とは、温かい雰囲気を広げる思いやり、前向きで温かい雰囲気を広げる頑張りを総称したものである。1学期に、どのようなことがやさしいパワーなのか、各学級で考えた。それをもとに友達のよさや思いやりのある行動、前向きな頑張りが率先して協力する姿を教師は積極的に価値づけている。教師側が価値づけるだけでなく、児童同士が相互にやさしいパワーを見つけ合うことで、さらにやさしいパワーを見つけようとする雰囲気を作り上げている。学級の係活動においても、「やさしいパワー係」をつくらせている学級もあり、やさしいパワーを児童から広めようとする意識が見られる。大松委員会を中心に、全校で「やさしいパワー」を貯めていくことで、道徳教育の「やさしいパワーを発揮する子」という目標に向けて取り組んでいる。

(2) 家庭・地域との関連

本校では、地域とのつながりをとても大切にしている。毎日児童のために通学路で児童を見守ってくださっている方や、地域の講師として授業に来てくださる方がいる。毎日の登下校では、通学路に立ってくださる地域の方に元気なあいさつができるよう、「あいさつ日本一」を目指す活動も行っている。先取りあいさつや、目を見ておじぎをしておきのあいさつが、全校に広まってきた。また、11月に行われた「地域の先輩に学ぶ会」では、地域の方を招いて、大淵地区のことや地域の素材をいかした授業を行った。

(3) 成果と課題

道徳の授業や教育活動全体で、日頃から地域の方や保護者など多くの方に支えられて、たくさんの学びができるのは、大淵地区のよさである。たいへん恵まれた環境の中で児童が生活できていることを多くの場面で感じる事ができた。その環境がありがたいことだと気づき、その感謝の気持ちを言葉や行動で表現しようとする心情をさらに育むことが、課題である。大淵地区で感じた地域の方の「やさしいパワー」を自分なりの方法で地域に還元できるような子どもの育成をめざしていきたい。